

要 請 書

沖縄県・鹿児島県におけるサトウキビ生産振興及び甘蔗糖業の振興等につきまして、日頃よりご支援を賜り、心より敬意を表します。

南西諸島におけるサトウキビ産業は、農業生産に始まる経済循環の過程で多くの役割を果たす重要な基幹作物・基幹産業であることは既知の通りです。

このような地域の生命線となる産業である事に鑑みて、農産物自由化交渉では重要品目としての対策が講じられており、今後も砂糖制度の安定化、維持・堅持を強く要請します。

令和元年度産のサトウキビ生産量は、鹿児島県においては概ね良好な作況となった一方で、沖縄県においては度重なる台風や気象災害の影響等により減少となりました。特に収穫期直前の台風による潮風害等の発生は収穫量や品質に多大な影響を与えており生産者にとって減収減益となり、製糖工場においても低品質原料に加え天候不良時の収穫機械停止等、工場への不安定な搬入量により極端な歩留低下に陥るなど、農工いずれも苦しい生産年度となりました。

このような産地状況を受け、令和元年度補正予算やセーフティーネット基金の発動による再生産に向けた支援がなされました。今年も非常に勢力の強い台風10号など近年大型化する台風や、ツマジロクサヨトウによる病害虫被害など生産への影響が恒常化する中、早期回復への取組みに即応する制度として活用、定着が進んでいます。産地からは時限措置となっている同制度の継続と「さとうきび増産計画」の推進に向けた継続的かつきめ細かい生産振興対策が強く望まれる状況となっています。

サトウキビ生産の現場においては、生産者の高齢化、就農者の減少が進行する中、多回株出比率の増加や管理作業遅滞による気象災害への脆弱性が鮮明化している状況です。このような状況改善に向け、受託作業の担い手確保が望まれています。管理体制や組織化等の課題によって容易に進展しない状況となっています。

以上の様に制度維持、生産課題、担い手不足と多岐にわたる課題が多くある中、産地行政による支援、連携が必要となっており、生産者・製糖工場の長期的かつ安定的な発展を期するためにも、以下の事項の実現について強く要請いたします。

1. 糖価調整制度の堅持

国内においては消費者の低甘味嗜好などを背景に砂糖の消費量が減少し、粗糖の輸入量減少をはじめとする調整金収支への不安材料が増すなかで、国においてはTPP11に関連する法案として加糖調製品への調整金適用がなされるなど糖価調整制度の安定化にむけた取り組みが進展しつつあります。

この様な情勢下、南西諸島の経済を支える糖価調整制度の堅持にむけて、以下の取り組みを引き続き要請します。

- (1) 砂糖消費の拡大をはじめとする調整金制度の安定化に向けた取り組みの継続、拡充を要請します。
- (2) 農産物自由化交渉における砂糖制度の聖域堅持を要請します。

2. さとうきび増産基金(以下、基金という)の継続について

気象災害等に対する緊急支援を行うために設立された基金ではありますが、現時点では令和3年度末での終了が予定されており、産地においては病虫害被害や気象災害によって再生産への取り組みが困難な状況となり、「さとうきび増産計画」に定める生産量の確保が危惧されています。

サトウキビの再生産を安定化させるためにも基金の継続を要請します。

3. サトウキビ生産安定対策として

① 圃場基盤整備について

近年、高齢化などの理由で離農等が進み、サトウキビ生産者数の減少が加速し、耕作放棄地の増加が進んでいる現状です。

今後、規模拡大や機械化(スマート農業など)を推進していく上では、効率的に栽培管理ができる体系を構築することから、これに対応できる圃場整備や農道整備などの基盤整備事業の維持および一筆あたりの圃場面積拡大への協力を要請します。

② 農業機械導入支援対策について

各島においては生産農家の高齢化や担い手不足などを背景に、植付や肥培管理の遅れによる低単収が常態化しており、収穫面積においても指針となる「さとうきび増産計画」との乖離が危惧されています。

今後もサトウキビ生産の維持拡大が図られる様、新規就農者や担い手農家の規模拡大にむけ、収穫機械や作業機械の導入または維持管理に対する支援の拡充および継続を要請します。

③鳥獣被害防止対策について

イノシシやシカの被害については、行政の支援を受け一定の対策が講じられてはいるものの、依然として生産量減少の一因となっています。

圃場への侵入防止対策として電気柵設置などに対する予算的措置の継続に加え、地域全体で被害防止対策に取り組めるよう側面支援の強化を要請します。

④難防除雑草の被害拡大防止対策について

近年、飼料用牧草地面積の拡大により雑草化したギニアグラスの種子がサトウキビ圃場へ流入しサトウキビ栽培に大きな影響を与えています。

また、年々生育範囲を拡げ現在では各地域において被害が発生している状況となっています。

今年度より、非選択性除草剤を使用した栽培技術試験が実施されていますが、今後の被害拡大防止策として、ギニアグラスに効果がありサトウキビの生育中に使用できる新たな選択性除草剤の開発と、難防除雑草の管理対策を講じるよう各関係団体への積極的な働きかけを引き続き要請します。

⑤精脱作業料金の助成について

種子島に於ける、サトウキビ刈取り料金は鹿児島県下で最も高額で有ります。内訳として、種子島以外の生産地域ではデトラッシャー（第3セクター）にてトラッシュ（消頭部）を除去しておりますが、種子島では、精脱装置にて対応しておりハーベスター刈取り料金と精脱作業料金を加算すると高額で、生産者負担増となり生産意欲の低下や離農に波及する要因であります。

よって、精脱作業料金についての助成支援を要請いたします。

⑥補正事業要件緩和について

今年度さとうキビ生産性向上緊急支援事業二次募集を行っていますが、土壌診断の範囲が広く活用出来ない産地があるのが実情となっています。

より広く各島々が活用できるよう要件の緩和を要請いたします。

以上